

知事： あともう1つ、小学校を今後どういう形で展開させていこうと思っているんですか。

Aさん： 三つの目的で使用しようとしています。一つは宿泊。ここに体験に来るお客さんを中心に泊まっていただく。他に、最近家の法事などのお祭りのために帰っても、高齢者が多く、家が泊まれる状態じゃない方が多いです。そういうときにも泊まっていただく。要するに、出身者の交流の拠点にしようというところなんです。その拠点の活用の仕方が宿泊施設。

もう一つが、地産外商に向けた農林水産物の加工施設。

そして三つ目が公民館としての機能で、地域づくりの拠点にしようということです。越知町役場横畠支所みたいな感じにしよう。

昨年の「新たな公の事業」の最後に、このような三つの機能を持たせるという方向が出たことを町長に報告しました。町長も、「実は越知の町にお客さんが来ても、越知には泊まっていただく施設が少ないので、いつも町外のホテルに公用車で送ったりもしている。それに代わるビジネスホテルのような機能も持たせることも考えてみてはどうですか」と逆提案をいただきました。ぜひそういう部屋もある、自炊ができる部屋や機能もあるという感じで活用したいと考えています。但し、このメンバーだけで運営するのは難しいので、新規雇用しないとやっていけないと思います。具体的には、これから年末ぐらいにかけて考えたいと思っています。

知事： 運営主体とかをこれから決めていくということですか。会社にするんですか。

Aさん： 運営の方向とどういう機能を持たすかは、これから話し合っていきます。先ほど私が県のアドバイザー制度を活用したいと言いましたのは、もしかして支援いただけるかなというところなんです。

知事： 産業振興計画は結構間口の広い、いろいろな政策を持っています。例えば一番簡単なものはアドバイザーで、県内外の方も含めて50人ぐらいを雇っています。ですから地域の皆様からのお話に応じて、一番最適だと思われるアドバイザーを派遣させていただくことがあります。一番大型の支援策は、地域アクションプランになったものに対して、総合補助金でバックアップをさせていただきます。これは補助率が3分の2ぐらいになります。ただ、こういう大型のものになると非常にハードルが高くなってきます。今後事業としてずっと成り立っていく見込みがあるかどうか事前に議論させていただいて、それをクリアしたら補助金が出るという形になっています。他には、地元で作られたものを販売促進するために、例えば高知市内の大手スーパーさんにご協力をいただいて、地元のものを試し売りする場、テスト販売をするコーナーを設けてもらうことにしていますので、そこで売れるかどうか一度試し売りをしていただく。売ればもっと伸びるでしょうし、売れなければさらに商品の改善をすることになってきます。まだ少し先になりますが、東京にアンテナショップを設けるだけではなく、高知市内に各市町村のアンテナショップみたいなものを設けようと思っています。こ

これは地域の皆さんのチャレンジの場としてぜひ使っていただきたいです。県と高知市が一緒にお金を構えて場を設け、割と安く利用できるようにしたいと思います。高知市内の中心市街地に設けることで、観光資源としても生きるように、県外からここに来たら高知県全体のいろいろなものが見れるように持っていければと考えています。まず一番最初にPRをするときにはそういう場を使っていればと思います。アクションプランだけではなくいろいろ使えるものがありますので、様々な仕組みをぜひともご活用いただければと思います。